



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

## 新型コロナウイルス災害からの展望

2020年、2月15日のまちネット寄居総会から3か月半が経ちました。新型コロナウイルス災害はその後日増しに拡大、よもやこのような事態に至るとは、ほとんどの方が想像することができなかったのではないのでしょうか。初期の報道では、高齢者や基礎疾患のある方が危ない、若者は大丈夫といった認識がその後の感染拡大を増大した原因ともなってしまった感があります。発生源やいろいろなことが取沙汰されてはいますが、まずはこの事態にどのように対応していくかが問われていると思います。

まちネットの活動も会議を持つ事ができず停滞しています。いつ治まるかまだ見えない中、ただじっと待つのではなく、新たな活動形態を模索していくことが今後の大きな課題ともなりました。この災害はこれからの私たちのライフスタイルを大きく転換できる可能性があると思います。簡単便利から再度手作りの生活スタイルへと変われるチャンスととらえることができます。

色々な思いで経過してきた時間ですが、この間での動きを通信でお伝えしていきます。

年に1度のネット総会は、参加者少人数でしたが、議案書の確認、承認、意見をいただきながら滞りなく終了しました。今年度の後半に活動計画が少しでも実現できるよう動いていきたいと思っています。

ネット会員の皆さんからの、緊急事態宣言下の外出制限などから学んだこと、感じたことなどこの機会にぜひお寄せください。



# 青畑ありがとう

## さようなら

### 家庭菜園講座から

3月15日は新型コロナウイルスが日増しに拡大する中でしたが、各自ができる限りの対策を取りながら家庭菜園講座を開催しました。4月は残念ながら講座始まって以来、初めての休講となりました。

季節が加速度的に推移しています。早春の風景からまばゆい新緑へそして鬱蒼とした緑へと日に日に成長する自然の力に圧倒されます。現在、家庭菜園講座で使わせていただいている青畑が6月末で地主さんから契約の終了を告げられました。畑を挟んで広がる東西を平地林に囲まれた青畑はすこぶる環境は良好で、長年耕作する中で良質な土壌になり、使い勝手の良い農地になっています。せっかくここまでといった思いは、菜園講師で畑を提供している鈴木恵子さんが一番無念に思っているはずで、6月が過ぎたからすべて畑から作物を撤去という事ではありませんが、新たな作付けはできなくなりました。

青畑ありがとう さようならとは鈴木恵子さんの言葉です。それは会員でもある私たちも同じ思いで、たくさんのおいしい野菜たちを農地から頂きました。感謝です。青畑は使えなくなりましたが、別の畑での継続を考えています。



もみ殻燻炭づくり



### 乱開発が進む寄居町

継続できなくなったのは、この青畑を含めた周辺の平地林の開発計画にあります。都内の太陽光発電の建売企業とのこと。建売とは、太陽光パネルを設置して投資家に売却することのようです。計画されている土地のすべての地主さんが売買契約へ至っているわけではありませんが、総面積は約17haの広大な範囲となっています。この開発計画には色々な問題が見えています。まずこの太陽光発電の買取価格が低下している中で、採算が取れるのか。となると一番手っ取り早い利潤を生む方法は、どこからか持ち込まれる残土の盛土の上にパネルを設置することが考えられます。どのような素性の残土なのかわかりません。まだまだ全体が見えているわけではありませんが、青畑のある男衾東部地区へは他にも産業廃棄物業者が入り込んでいて、過積載の大型トラックの頻繁な通行により町道が50cm以上も陥没した状態で数メートルにも及ぶなどの色々な問題が起きています。(現在は通行止めとなり、陥没箇所には砂利が入られています)

### 企業本位の盛土切土への規制を

現在寄居町には盛土切土への規制する条例がありません。このような状況下、ある意味規制のない寄居町は悪質な業者に狙われているのかもしれませんが、早急に制定する必要に迫られています。現在地域住民を中心に9月議会への条例制定を求める請願署名活動が始まっています。一日も早い条例制定を後押ししていきたいと思えます。

5月17日の菜園講座では、今回の開発予定地のおおよその範囲を参加者全員で歩いてみました。

一度失われた自然は二度と戻りません。かつてのホタルのように、当たり前にあった動植物の消滅など本当に悲しいことです。失われる農地はさらに心痛いことです。これからの農の在り方も含めて、これを機会に新しい菜園講座を皆で模索していきたいと考えています。

この問題に関しては、継続してお知らせしていきます。

大北秀子

## コロナ第二波、第三波に備え 地域ワクチン開発を！

防戦一方の自粛生活がなお続く。見えない最強の敵コロナ。こんな社会がよもや来ようとは。でも、ガードを固めるだけじゃあ能がない。カメヤカタツムリじゃあない。こんな時こそ高齢者の経験と技術と知恵とを結集させ総合力で、次なるコロナせん滅だ。幸運にも寄居は、コロナ感染を最小限にとどめている。逆に言えば、この経験を生かせる能力が宿った、といえる。そのキーワードは「農業」。

農業は近いところでは1991年(平成3)に「農業農村整備事業」、その前身「農業基盤整備事業」(1960年)によって、小さな田んぼが合体され、機械化され生産性が高まり、農家の所得も上がった。しかし第一次産業としての地位はその勢いは今はない。結果、食料自給率はカロリーベースで37%(2018年)。

コロナウイルスは考え方、行動など含めた価値観を見直す機会を与えてくれている。わざわざ時間と労力をかけ通勤して働くことや、便利と快適さの都会暮らしはリスクが高いことなど、これからの有り様にヒントをくれた、そう思っている。もちろん世界中が甚大な被害を被ったことを受け止め、それを糧として、が前提になる。近所の女性が「私たち夫婦はノウコウ接触してます」と笑う。そう、そうなのだ。で、イントロは終わります。



## 近場の生産活動が地域リーダーを育てる

寄居の町は、都内から70キロ圏内に位置する。人口は1月現在で32,526人。80キロから70キロ圏内の町づくりは難しい、と言われている。住む人たちの指向が都会を向いているから、が理由らしい。札幌、仙台、東京など、いわゆる政令都市近郊の町づくりはしんどい。寄居も同様。がしかし、コロナはそんな概念を転換させる、いや、つくり変える機会、ととらえることができる。

感染リスクが低い「ノウコウ接触」ができる農地・山林はじめとする豊かな自然環境が、この町の資源。これが感染拡大予防に貢献している、と、見立てている。つまり、この資源を担保に、まちづくり運用に当てる、好機ではないだろう。

農業単体で1次産業として死守するやり方はもちろんある。もう一方、他の産業と連携する発展もある。いわゆるコラボレーション、フレンドシップ戦略である。モデルケースがないではない。でも地域そっくりのケースは見ない。

農業と医療「医・農」、農業と福祉「福・農」、観光と農業「観・農」、農業と学校「農・学」など、他の産業と組み合わせ相乗効果をもたらせる経済活動拠点の地域づくり、町づくりである。内に立ち返りインバウンド固め。そこから改めて、グローバルに向かう。

つまり、わがまち、わが地域＝「近場」の再認識と新たな価値づくりだ。それぞれの分野の専門性が地域の強み、特産品を創出する。近場の生産経済活動から地域リーダーが育つ。コロナ第二波、第三波をも食い止める地域ワクチンとなり得る、そんな思いが強い。2015年の9月に国連サミットで日本含めた加盟国193か国は「SDGs」を採択している。SDGs(Sustainable Development Goals)持続可能な開発目標の略。持続可能なまち・地域づくりのために、その思いは強い。

大北ひさかつ

## 身近な帰化植物図鑑—セイヨウタンポポ—

ヨーロッパ原産の多年生草本です。根が残って冬を越し、春にそこから成長します。世界中に帰化しています。日本には明治の初め、札幌農学校のアメリカ人教師が野菜として持ち込んだという説があります。

セイヨウタンポポとカントウタンポポがあり、今日私たちが寄居町で目にするタンポポは全てセイヨウタンポポもしくはこの二種の雑種とっていいと思います。カントウタンポポが咲いていたら、昔の植生がよく保たれているということになります。ニホンタンポポという呼び方もよく目にしますが、この名前のタンポポがあるわけではなく、日本にある約20種のタンポポ全体を西洋タンポポに対して使っているのでしょう。

セイヨウタンポポとカントウタンポポはよく似ています。区別する一番簡単な方法は、花の下側を見ます。



この部分がこの様に  
反り返っていたらセイ  
ヨウタンポポ、反り返っていな  
かったらカントウタンポポ。  
雑種は両方の特徴が混ざ  
っていることがあります。

セイヨウタンポポがカント  
ウタンポポを追いやり、

いえ世界中で帰化しているのにはいろいろな理由があります。子孫を残す方法についてカントウタンポポとの違いを挙げてみます。

- ・花は主に春咲くが、その後も少しずつ一年中咲く
- ・種子が小さく数が多い(少しの風でも飛んでいく)
- ・花粉を昆虫に運んでもらえなかった場合、自分だけで種子が残せるので、昆虫がいない場所、近くに仲間がいない場所でも増えられる(カントウタンポポは別の花の花粉が付かないと種子ができない)などです。

\*我が家のセイヨウタンポポは巨大化する傾向にあり、一本のタンポポから100本以上の花茎が出ます。こうなるとあまり可愛くありません。



上の写真の花が咲いている茎の高さと、種子が出て風で飛ばしている茎の高さを比べてみて下さい。少しでも高いところで風を受ければより遠くまで種子を飛ばせるわけですね。花が咲き終わり実が熟してくると茎は長く伸びます。他の植物でも似たような傾向はありますが、セイヨウタンポポは分かりやすいです。

ちなみに花と言いましたが、タンポポに限らずキクの仲間は一枚の花弁のように見える部分ひとつひとつが一つの花です。一枚を抜き取ってよ〜く見てみると、花弁の先端にはかすかに五つのギザギザがあります。五枚の花弁がくっついて一枚になったのです。元の方は輪になって中に雄しべ雌しべその他があり、一つの花だと分かります。

\*外国ではサラダ等にして葉を食べることもあるそうです。かなり苦みがあります。私は花を天ぷらにします。タンポポコーヒーも作ってみました。色はコーヒーそっくりですが、味は全く違いおいしくはありません。根を掘るのは大変なので二度やる気はないです。綿毛が伸びる前の種子をカワラヒワやスズメが食べています。

白井操子